

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟504室

【授業目的及び達成目標】

多様な世界観と価値観の諸相をヨーロッパ精神史の流れに沿って考察し、自然・社会・人間のありようを把握する際の、ものの見方・考え方の重要性を認識させる。西洋哲学の基礎概念を体系的に修得し、哲学的思考形態の習熟が主要な課題である。この科目は哲学入門としての性格も兼ね備えている。

【授業キーワード】

世界観、価値観、人間観、哲学・倫理思想、人類の幸福

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とする。随時レポートを課す。

【授業項目】

1. 西洋思想の源流
2. ギリシャ古典時代の哲学と世界観
 - 1) ソクラテス以前の自然哲学
 - 2) ソフィストとソクラテス
 - 3) プラトン、アリストテレス
3. ヘレニズムの人間観と価値
エピクロス学派とストア学派
4. 中世キリスト教世界の人間観
 - 1) 初期教父哲学
 - 2) スコラ哲学
5. ルネサンスと宗教改革
 - 1) イタリア・ヒューマニズムの思想
 - 2) マルティン・ルター
6. 近世・近代の思想
 - 1) デカルトと合理主義的人間観
 - 2) イギリスの経験論とフランス啓蒙主義思想
 - 3) カントとドイツ観念論
7. 二十世紀の思想
マルクス主義、実存主義、プラグマティズム
8. 世界観の類型と変容
9. 価値観の諸相と系譜
10. その他

【教科書】

「西洋哲学思想史」山下太郎 北樹出版
適宜プリントも配布・使用する。

【参考書】

「ヨーロッパ精神史」飯塚勝久・水野建雄編著(北樹出版)
「西洋哲学史」内山勝利・中川純男編著(ミネルヴァ書房)

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験(60%)および中間試験・レポート・平常点(40%)の結果により総合的に評価する。

【留意事項】

世界史の大まかな流れを把握しておくことが望ましい。

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟504室

【授業目的及び達成目標】

人間存在に関する基本問題を、倫理学基礎論の考察を通じて明らかにし、同時に高度技術社会としての現代の社会構造を分析し、現代人としてのあり方を主体的に探らせる。それをベースにして、現代社会における技術者倫理についても考察する。内容的に倫理学入門にも相応する。

【授業キーワード】

人類の幸福・福祉、人間と倫理、責任論、技術社会、技術者倫理

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とするが、受講者が少人数の場合には、討論形式も併用する。随時、確認のための小テストを行う。数回レポートを課す。

【授業項目】

- 1 人間論の成立
- 2 人間論の類型
- 3 人間存在論
- 4 倫理学基礎論
- 5 人間と倫理
- 6 規範倫理理論
- 7 技術と倫理
- 8 倫理的責任論
- 9 技術者倫理
- 10 現代倫理学の課題
- 11 その他

【教科書】

特定の教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

【参考書】

「現代の人間学」南條文雄著 北樹出版
「人間論の可能性」瀬島順一郎他 北樹出版
「技術倫理」C.ウイットベック(札野 順・飯野弘之訳)。みすず書房
その他、講義中に随時紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験(60%)および小テスト・レポート・平常点(40%)の結果により総合的に評価する。

【担当教員】

芳井 幸子

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

今年度は明治維新から、十五年戦争期までの時期をとりあげる。明治維新政府によってどのような近代国家が形成されていったのか。また日清戦争以後の帝国主義国家形成への歩み、民衆の政治的成長を背景とする政党政治の展開とその限界など。日本の近代史に関する基礎知識を身につけること。

【授業キーワード】

天皇制、帝国主義の時代、政党政治、アジア侵略

【授業内容及び授業方法】

毎回配布するレジюмеに沿って講義する。

【授業項目】

1. 近代国家体制の樹立(3回)
幕藩体制の崩壊から、近代天皇制国家体制の樹立
 - ・明治維新
 - ・自由民権運動
 - ・大日本帝国憲法の制定
2. 帝国主義時代と日本(4回)
帝国主義時代という国際環境の下での日本
 - ・藩閥政府と政党
 - ・日清戦争
 - ・日清戦争後の社会
 - ・日露戦争
3. 政党政治の展開(3回)
日露戦後の民衆運動の高揚を背景に、政党内閣に至る政党政治の展開
 - ・日露戦争後の社会
 - ・第一次世界大戦と日本
 - ・社会運動の高揚と政党政治の展開
4. 十五年戦争(4回)
1931年9月の柳条湖事件から、1945年8月のポツダム宣言の受諾にいたるまでの一連の戦争過程
 - ・満州事変
 - ・日中戦争の全面化
 - ・三国同盟と日米戦争
 - ・敗戦
5. 期末テスト

【教科書】

特定のものはない。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【成績の評価方法と評価項目】

| | |
|--------|-----|
| 平常点 | 10% |
| 課題レポート | 40% |
| 期末試験 | 50% |

試験実施方法及び評価基準

- 1、期末テストはノート類の持ち込み不可。
- 2、学期中に二～三回レポートの提出を求めます。

【留意事項】

高校時代に日本史を学ばなかった学生は、特に受講を勧めます。

【担当教員】

相沢 央

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

東アジアのなかにおける日本古代律令国家の形成過程とその支配の特質、および古代社会の構造を理解すること。

【授業キーワード】

対外関係、律令国家、遺跡、木簡、墨書土器

【授業内容及び授業方法】

日本列島における最初の本格的な国家である古代律令国家は、東アジアの諸国家・諸地域間の緊張関係の中で形成された。この授業では、古代律令国家と東アジア諸国・諸地域との関係を具体的に論じるとともに、古代国家による支配の仕組みと古代地方社会の構造を、文献史料や、近年の発掘調査によって急増する木簡、墨書土器など、最新の出土文字資料を活用しながら論じる。毎回配付する資料によって授業を行い、授業についてのコメント(感想、質問等)を提出してもらう。

【授業項目】

1. はじめにー現代社会と古代ー
2. 古代律令国家の対外関係
3. 古代律令国家の情報伝達システム
4. 墨書土器と古代村落の構造

【教科書】

なし。毎回配付する資料を用いる。

【参考書】

授業の中で示す。

【成績の評価方法と評価項目】

出席と期末テストによる。

【留意事項】

特になし。

【担当教員】

若林 敦

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟502室

【授業目的及び達成目標】

ことばの性質、及びコミュニケーションの仕組みを理解し、ことばのよい送り手・受け手となる。

【授業キーワード】

ことば、記号論、コミュニケーション、意味論、語用論

【授業内容及び授業方法】

教官の講義によって進める。授業時には資料をプリントとして配付する。中間試験と期末試験を行う。試験では、授業で習得した知識を確かめる。併せて、授業内容に関連する事例をあらかじめ収集し、それを考察することも課す。

【授業項目】

- 1.ことばの成り立ち(5回)
音声と音韻、文字と表記、文法、語彙と意味
- 2.ことばと記号(2回)
記号論の考え方、記号としてのことば
(中間試験)(1回)
- 3.コミュニケーションの構造(3回)
発信者・受信者・メッセージ、文脈と状況、非言語情報伝達
- 4.意味と経験(3回)
ことばの意味、デノテーションとコノテーション、伝達と相互理解
(期末試験)(1回)

【教科書】

用いない。

【参考書】

授業の中で示す。

【成績の評価方法と評価項目】

- 1.評価方法
試験による。
- 2.評価項目
 - 1)ことばとコミュニケーションに関する知識を習得した。
 - 2)自ら事例を収集し、それを考察することができた。

【留意事項】

ことばとコミュニケーションに関する諸事象に普段から関心を持ち、事実をよく観察すること。

【担当教員】

若林 敦

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟502室

【授業目的及び達成目標】

日本の近・現代小説に描かれた人間像をとらえることを通じ、小説の鑑賞法を学ぶとともに、人間や社会についての問題意識を養う。

【授業キーワード】

日本近代小説、日本現代小説

【授業内容及び授業方法】

教官の講義によって進める。「授業項目」に示す作家と作品を取り上げる。授業時には資料をプリントとして配付する。受講する学生は、以下のことを行う。

- 1.それぞれの作品を各自で読んでおく。
- 2.「授業項目」1.~3.のそれぞれの終了時に課すレポートを提出する。レポートでは、授業の内容をふまえ、自分の考えを述べる。

【授業項目】

- 1.樋口一葉
1)樋口一葉の生涯(2回) 2)『たけくらべ』(1896) (4回) 3)『にごりえ』(1895) (2回)
- 2.村上春樹
1)『風の歌を聴け』(1979) (1回) 2)『ノルウェイの森』(1987) (3回)
- 3.遠藤周作
1)『深い河(ディープ・リバー)』(1993) (3回)

【教科書】

樋口一葉『たけくらべ』(集英社文庫)
村上春樹『風の歌を聴け』(講談社文庫)、『ノルウェイの森』(上下、講談社文庫)
遠藤周作『深い河(ディープ・リバー)』(講談社文庫)

【参考書】

授業の中で示す。

【成績の評価方法と評価項目】

- 1.評価方法
レポート(3回)による。
- 2.評価項目
1)作品を読み、授業の内容が理解できた。
2)各作家の作品に対し、自分の考えを深め、まとめることができた。

【留意事項】

特になし。

スポーツ方法論(体育実技)Ⅰ
Sports Methodology (Physical Exercises) 1

実習 1単位 1学期

【担当教員】

塩野谷 明

【教員室または連絡先】

体育・保健センター108室 (内線9823,E-mail:shionoya@vos.nagaokau.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

身体運動を初歩的な工学、スポーツバイオメカニクスの視点から捉え、より高度な運動パフォーマンス習得のための科学的基礎および理論を実技をとおして学ぶ。

【授業内容及び授業方法】

ひとつの教材(テニス)をとおして、そこでの運動強度や活動量および力学的視点にたった技術論をグループ単位で行うとともに、幅広い身体活動(運動・スポーツ)に関する基礎的知識を身に付ける。

【授業項目】

(教材に関して)

1. ゲームが行えるまでの技術の総括
2. フォアハンドストローク
3. バックハンドストローク
4. サービスとボレー
5. 教材における運動強度・活動量
(身体活動に関する基礎に関して)
6. 脂肪量・脂肪率の計測
7. 適性運動強度の算出(PWC75%HRmax)
8. 体力テスト(簡易テストならびに形態計測)
9. 最大挙上重量(1RM)
10. 救急法
11. 着衣水泳
12. 13. 14. 15. ゲーム

注)スポーツ方法論については、授業項目の頭の番号は授業回数を示すものではない。

【参考書】

- 「新・テニスの科学」テニスジャーナル社(塩野谷 明他)
「健康ライフをめざす基礎知識」考古堂書店(塩野谷他編著)

【成績の評価方法と評価項目】

上記学習項目に関する冊子(30頁程度)を配布、冊子レポート内容を完成させることで評価する(40点)。ただし出席点を重視(60点)。

スポーツ方法論(体育実技)II
Sports Methodology (Physical Exercises) 2

実習 1単位 2学期

【担当教員】

塩野谷 明

【教員室または連絡先】

体育・保健センター108室 (内線9823,E-mail:shionoya@vos.nagaokau.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

スポーツ方法論(体育実技)Iおよび健康のためのスポーツ科学を基礎として、各自の健康保持・増進と生涯スポーツに結び付けるきっかけを掴ませるとともに、集団行動での自主性・主体性を求める。

【授業内容及び授業方法】

授業全体15回を3つに分け、多くのスポーツ種目を体験させる。実技種目、内容は自由にプログラムさせ、学生の自主性に任せて行なわせる。合わせて救急蘇生法や着意水泳といった運動実践各論、およびスポーツ方法論Iで行った体力テストについても実施、体力テストについては1年時との比較を行う。

【授業項目】

(実技種目)

1. 屋内体育館種目(バスケット、バレー、フットサル、卓球、バドミントン等)
2. 屋外種目(テニス、ゴルフ、サッカー、ソフトボール)
3. 屋内トレーニング種目(ウェイトトレーニング、有酸素トレーニング、水泳)

(実技課題)

5. 自主性・主体性(この内容について重視する)
6. 体力テスト(スポーツ方法論I 冊子に準じる)
7. 救急蘇生
8. 着衣水泳

注)スポーツ方法論については、授業項目の頭の番号は授業回数を示すものではない。

【参考書】

「健康ライフをめざす基礎知識」考古堂出版(塩野谷他編著)

【成績の評価方法と評価項目】

自主性・主体性についてのチェック(20点)、課題レポート(20点)および出席点(60点)

【留意事項】

健康のためのスポーツ科学を受講しておくことが望ましい。
また、スポーツ方法論I 冊子(資料)を参考。

【担当教員】

塩野谷 明

【教員室または連絡先】

体育・保健センター108室（内線9823,E-mail:shionoya@vos.nagaokau.ac.jp）

【授業目的及び達成目標】

心身の健康とスポーツの関係をスポーツバイオメカニクスに基いて理解させるとともに、スポーツ方法論（体育実技）での実践内容について、より理論的な意味付けを行ない、健康のための生涯スポーツを実践する知識と能力を養う。併せて、スポーツに関する身近な話題から、本学の専門分野である工学とスポーツの関連性について考えさせる。

【授業内容及び授業方法】

資料、スライド、OHP、VTR等を併用して進める。

【授業項目】

1. 総論：健康に関与する体力とは
2. 総論：精神的要素～YGテストによる評価
3. 総論：身体的要素～スポーツ方法論における体力テストによる評価
4. 総論：健康問題総論
5. 各論：エネルギー代謝～有酸素性と無酸素性代謝
6. 各論：心拍数のもつ意味
7. 各論：最大酸素摂取量、PWC75%HRmax
8. 各論：AT、LT、VT～マラソンを完走するためには？
9. 各論：パワーについて
10. 各論：筋の特性
11. 各論：健康のためのスポーツ実践
12. 各論：ウォーキング
13. スポーツ方法論IIへのいざない
14. トピックス：ジャンプ競技のV字飛行
15. 紙飛行機コンテスト

【教科書】

「健康ライフをめざす基礎知識」考古堂書店（塩野谷他著）
購入は授業開始後指示するので、先に自分で購入することのないように）

【成績の評価方法と評価項目】

各学習項目毎の10分間レポート、講義ノート提出

【留意事項】

選択ではあるが、スポーツ方法論との関連が強いために、履修しておくことが望ましい。最終日に紙飛行機（自作：独創性を求める）飛行コンテストを行なう。ジャンプ競技のV字飛行の原理を考える。

【担当教員】

塩野谷 明

【教員室または連絡先】

体育・保健センター108室（内線9823,E-mail:shionoya@vos.nagaokau.ac.jp）

【授業目的及び達成目標】

心身の健康とスポーツの関係をスポーツバイオメカニクスに基いて理解させるとともに、スポーツ方法論（体育実技）での実践内容について、より理論的な意味付けを行ない、健康のための生涯スポーツを実践する知識と能力を養う。併せて、スポーツに関する身近な話題から、本学の専門分野である工学とスポーツの関連性について考えさせる。

【授業項目】

1. 総論：健康に関与する体力とは
2. 総論：精神的要素～YGテストによる評価
3. 総論：身体的要素～スポーツ方法論における体力テストによる評価
4. 総論：健康問題総論
5. 各論：エネルギー代謝～有酸素性と無酸素性代謝
6. 各論：心拍数のもつ意味
7. 各論：最大酸素摂取量、PWC75%HRmax
8. 各論：AT、LT、VT～マラソンを完走するためには？
9. 各論：パワーについて
10. 各論：筋の特性
11. 各論：健康のためのスポーツ実践
12. 各論：ウォーキング
13. スポーツ方法論IIへのいざない
14. トピックス：ジャンプ競技のV字飛行
15. 紙飛行機コンテスト

【教科書】

「健康ライフをめざす基礎知識」考古堂書店（塩野谷他著）
購入は授業開始後指示するので、先に自分で購入することのないように）

【成績の評価方法と評価項目】

各学習項目毎の10分間レポート、講義ノート提出

【留意事項】

※本科目は、eラーニング科目として、科目等履修生、及び聴講生もしくは単位互換協定にかかる特別聴講学生に対して開講されたものであり、本学に通学しなくても遠隔地等の学外から履修できる遠隔授業科目である。よって、これ以外の本学学生は履修できない。

選択ではあるが、スポーツ方法論との関連が強いため、履修しておくことが望ましい。最終日に紙飛行機（自作：独創性を求める）飛行コンテストを行なう。ジャンプ競技のV字飛行の原理を考える。